病院だより

からだの中の石

町立和寒病院　臨床検査技師　中山　千夏

「石があります」と、健康診断や病院受診で言われたことがある方も多いと思います。からだの中の石、できる臓器も原因も様々で混乱してしまうのではないのでしょうか。よく耳にする石を中心に紹介します。

胆石

胆嚢・胆管にできる石です。石のある場所により**胆嚢結石・総胆管結石・肝内結石**と呼ばれます。石は胆汁成分であるコレステロール・ビリルビンカルシウムでできており、石ができる原因ははっきりとわかっていないのですが、脂質異常症・食生活習慣・急激なダイエット・胆嚢や腸の機能低下が石形成に関連する因子であると言われています。

胆石症の２～３割は無症状ですが、半数以上の人に「胆道痛」といわれる右肋骨下やみぞおちの痛み・右肩に放散痛がみられます。胆嚢炎・胆管炎を引き起こすこともあります。

尿路結石

腎臓・尿管・膀胱・尿道にできる石で、石のある場所によって**腎結石・尿管結石・膀胱結石・尿道結石**と呼ばれます。石はシュウ酸カルシウム・リン酸カルシウム・尿酸・リン酸アンモニウムマグネシウム・シスチンなどでできており、石ができる原因は様々ですが水分不足・食事の偏りや運動不足などが関与していると言われています。

腎結石は無症状の事が多いですが、尿管内に落下すると背中やわき腹の激痛や下腹部への放散痛・血尿が見られ、腎盂腎炎や膀胱炎を引き起こすこともあります。

膵石

膵臓の膵管という管にできる石です。成分は炭酸カルシウムで、アルコール多飲などによる慢性膵炎により生じます。上腹部痛や腹部の圧痛がみられることもあります。

唾石

唾液腺のなかの管にできる石で主に顎下腺にできます。成分はカルシウムで、脱水などにより唾液の粘度が高くなるとできやすいと言われています。食事の時に顎の下や耳の前に痛みや腫れが生じることがあります。

この他にも、耳の中にあり平衡感覚に関与する[**耳石**] 静脈内にできる[**静脈石**] 歯に付着する[**歯石**] など、からだの中には様々な石が生成されます。これらの石は町立病院でも、超音波やレントゲン・ＣＴなどの画像診断装置で検査することができます。